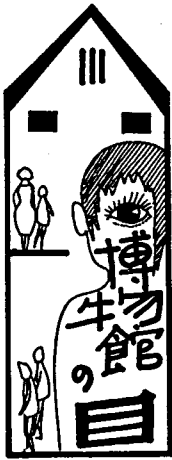


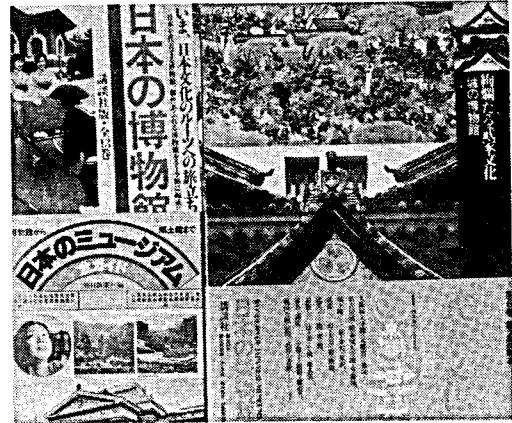
## 軽視されがちな自然史分野



カラー写真を主とした豪華な「世界の博物館」が好評のうちに完結し、姉妹編「日本の博物館」(全13巻 講談社)が発行されている。また朝日新聞社からは、「全ガイド、日本のミュージアム」東日本・西日本編2冊が同時発行され、出版物においても博物館ものが目立

っている。県単位の公立博物館の急激な増加、社会の進展に伴う生涯教育の重要視、生涯教育施設の整備とともに、人々の知的欲求度の高まりを反映したものと見え、博物館人にとっては嬉しい限りである。博物館に勤務したいという若者が目立って多くなったのも最近の傾向で、ようやくにして、博物館とは何であるかの認識が広まり始めたといっている。

しかし、それは「ようやくにして……」というように、博物館ものが華々しく出版されるとはいえ、博物館界の現実、博物館法に高らかに唱いあげられた本来の姿とは、痛々しいまでに遠くかけ離れた存在である。博物館とは、珍品奇異なものを集めて陳列するところではないことは当然で、社会教育機関であると同時に、資料の収集・保管、ものについての専門的調査研究を責務とする他に例を見ない特異な機関である。しかし、公立でありながらも、博物館の心臓ともいえる調査研究費に不足し、あるいは全く無しという館すら存在する。資料収集費・購入費、あるいは教育普及活動費についても同



じようで、これでは手足が無くて動けないどころか、心臓すらもストップした建物だけの屍とさえいえるのが多くの館の実体である。また、日本の博物館全13巻の内容をみると、日本美の伝統・民芸の美・民家と民具・等々と、圧倒的に人文分野の時代的な遺産遺物中心の内容が主体で、自然史分野関係は1巻足らず、それも化石資料を主体とした内容のようである。このことは、博物館すなわち時代的な古き貴重品のあるところ、といった博物館の一面ばかりが強調され、ごくありふれた身のまわりの自然物を対象とする自然史軽視の表われといっている。ありふれた岩石鉱物・動植物、その資料収集と調査研究の成果をふまえ、自然史の科学的事実・真実をこそ人々に伝えるべき自然史系分野の博物館は絶対数も少なく、立ち遅れており、軽視されがちな分野である。(S.O)

可児郷土歴史館分館  
民俗資料館

▽ 509-02 可児郡可児町久々利1644の1

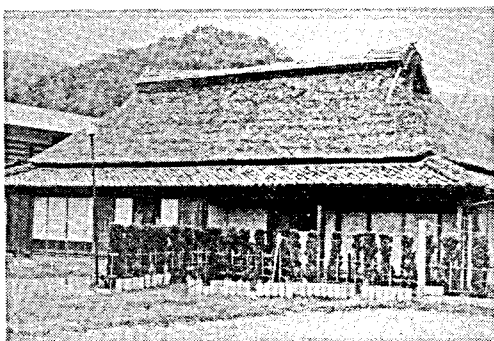
TEL (05746) 4-0211

本誌№21の館園紹介で紹介した可児郷土歴史館は、郷土の歴史教育の拠点として、昭和48年に開館し、有名な久々利銅鐸を中心とした埋蔵文化財資料の収集、保存、展示に努めている。町内各地より出土した土器・石器はもとより、美濃焼発祥の地として、地元で大平・大萱等の古窯をひかえ、陶片などの美濃焼資料も展示され、また自然の歴史資料でもあるカニサイ・ヒラマキウマ等の化石資料も展示されている。

県内各地に、市町村立の郷土館・歴史館・資料館等が作られてきた中で、最も早いうちから、ひとつの模範的な存在として開館しただけに、その後収蔵資料も増加し、また収蔵資料として民俗関係を見捨てることもできず、昭和52年8月に完成したのが、この分館「民俗資料館」です。

当地方江戸期の頭百姓（庄屋・年寄・百姓代等）の最も代表的な民家を移築し保存するとともに、館内に民俗資料を展示したもので、歴史資料館に隣接して建てられています。この建物は、木造母屋入り麦藁葺き、瓦ひさし付きで、

（生産用具の展示）



（民俗資料館の全景）

天保時代には既存していたことが明らかのことです。おそらく、文化文政頃の建築であろうとのことです。奥のザシキとナンドの二室だけは畳が敷かれ、ダイドコとオカッテは板敷となっています。天井も素竹が列べられており、昔の姿がしのべられます。

郷土歴史館から直接通路が設けられており、館内には、生活様式の変化とともに、私たちの身のまわりからはどんどん姿を消していった生活用具、生産用具などが見学できるようになっています。郷土の歴史教育の拠点として、これまでよりもいっそう市広い資料が、地域住民に公開されることとなり、嬉しい限りです。ただ懐古趣味や珍品陳列にとどまることなく、これらの実物資料を最大限に活用され、人間の生き方を考える場、過去をみつめ、現実を反省し、これからをよりよく生きようという意欲づけになるような郷土学習の普及事業・教育活動を期待したい。休館日、月曜日・祝日の翌日、開館9時～4時30分。一般200円、小中生50円、30名以上団体割引 一般160円、小中生30円

（素朴な土人形もみられます。）



# わたしの抱くナイト・ミュージアム

古陶館 早瀬雅啓



現在の日本において、昼間の博物館は存在しても夜間の博物館は何処にもございません。働いている市民を対象に、ナイト・ミュージアム構想を考えた次第です。昭和54年12月17日付の中日新聞夕刊、『こちら特報』に掲載していただきました。

既存の博物館は何処も夕方4時か5時に閉館しており、勤め人は行きたくても行かない場合が多い。素晴らしい催しだと、土曜日曜日は人ゴミでのんびり鑑賞も出来ないのが現状です。パリヤシソールには、夜9時まで開館しているところがあるように、日本に、いや岐阜に夜間の小さな美術博物館があってもいいのではないかと考えた次第です。勿論、省エネ・職員の勤務形態等、難解な問題がありますけど、愛好家が集まって運営する訳ですから、例えロウソクの灯でもやれるはずですよ。

わたしは郷土の美濃古陶の愛好家で、これを中心に展開したいと思いますが、ナイト・ミュージアムは同時に、芸術サロン・文化サロンとしても運営するつもりです。夜の時間帯に美術工芸品を公開し、市民に文化的教養を教化し、美術工芸愛好家の人々の憩いの場とし、また美術工芸家の人々に創造を無限に提供する目的をしたい。

例えば美濃焼中心ですが、失われつつある生活様式の文物も一緒に展示したいのです。民衆に使用された文物は、民衆の魂であり、民族の宗教の折りであり、それらの文物には息吹があ

ります。わたしは、過去から現在に至って使用されたあらゆる文物を、文化の背景として展示したい。そして日本と外国の文化の比較を考え、考える美術館を目ざして進む所存です。

大衆の気付かなかった意識を呼び起こすのも博物館の使命かも知れない。決して、単に見せるだけの自己満足のコレクターの記念館的なものにしたくありません。やはり鑑賞して、日本人の心根に「ときめき」と「やすらぎ」と「驚き」とを培ってゆきたいと思います。

別に夜間にこだわる必要はありませんが、野球にはナイターがあるし、スーパーでも深夜営業があるし、学校にも定時制があります。なのに博物館や美術館は昼間だけです。何故かとても矛盾を感じられるのは、わたしだけではないでしょう。

真夜中の午前零時まで開館し、ほろ酔い気分の人でも気軽に入館していただくつもりですが、これも心ある人は、ほろ酔い気分とは何事だとお叱りを被るかも知れませんが、緊張のほぐれた時の鑑賞の醍醐味は、実に素晴らしいものです。日本民族の生きた英智の結晶をほろ酔い気分で見れば、その感興も一入でしょう。

夜毎にバー、キャバレーなどのピンクサロンへ通う夜行族の諸士に進言したい。夜の貴重な一時を単に酩酊して過ごすよりも、文化の香りのする文物・古美術品などを展示する文化・芸術サロンの中で、特性ある人士と交流する方が、同じ酩酊するにしても遙に健全でしかもその文化的効果は大である……と。

ナイト・ミュージアムは、夜間の美術博物館として活動し、古美術を通じて人との触れ合いの独特なサロンにしたいものです。また文物や古美術を通じて、価値観の多様性を展開し、権威的な博物館に対して、夜間に開館する独自の存在感のある民間の私立美術博物館を、わたしのライフ・ワークとして創設することを願ってやみません。

## 岐阜天文台の教育普及活動

# 10年間を振り返って!!

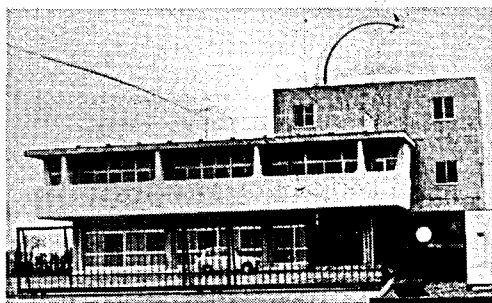
岐阜天文台長 正 村 一 忠

岐阜天文台も開台してから10年がたちました。もともと星好きな連中が集まって、観測を主体とした天文台を企画したのですが、建設計画の過程で、周囲からくせかく立派な施設を作る以上、地域の皆さんにも開放したらという意見が出ました。多くの方々の暖かい御支援と協力を得て完成し、その後この方式に刺激されてか、国内各地に公私続々と天文台が誕生しました。

当天文台の主鏡は、国産最大でレンズもセミアポクロマートという高級レンズが使っており、10年経った今日でも国産望遠鏡の王座を占めています。もともと豊富な運営資金もなく、ポケットマネーのかき集めが主な運営資金で、これに会費、寄付金、講師謝礼等も何もかもぶちこんで、また岐阜県・岐阜市・羽島郡・柳津町等周辺市町村からの助成を得て、何とかやりくりを続けて10年経ったというわけです。主目的である観測と整理も思うにまかせず、1~2年前までの記録や写真が、やっと整理の緒についたというところですよ。

この間に、来台者は20数万人に及び、星を眺め月を見、太陽の活動に目を見張り、中には病みつきとなり幾度も来台される人も増えてきました。天文台に来て宇宙の話聞き、現実の星座を眺め、それぞれに宇宙を理解し星の世界に色々と思いをめぐらして帰って行く。その中に、果してどれだけの教育効果があったのだろうか、と時々反問することがあります。

望遠鏡の視野の中の土星の環に、月のクレーターに、木星の衛星に、オリオンの大星雲に、宇宙の不可思議さを感じ感嘆して帰って行く人もあれば、さぞ大望遠鏡なれば、火星や月に着陸した宇宙船の姿が見えるだろうと、大きな期待をして来て、小豆のような火星にガッカリという人もあり様々です。来台されたある大学教



授がく何もむつかしいことはいらぬのです。普段見ることが出来ない宇宙の一部でも、眺めた体験は、その人の生涯の中でふっと、この大宇宙に対して思索の時を持つことがあるだろう。それだけでも、その人の人生観に対しプラスである。それだけでも大きな成果である」と云われました。

当天文台では、星に親しみ宇宙を勉強しようという良い子のために、天文教室を月4回開いています。小学生や中学生には、星の話や初等の天文講座を、高校生や一般には観測の技術や方法について、そして最近では電卓による天文計算講習会等も開催しています。また、毎月第1・2・3土曜日の夜、第1・3日曜日の昼を、一般に無料公開しています。

この10年の間に気づいたことは、当初は男子の学生が主力を占めていましたが、最近では親子連れ、女子の占める率が半分近くに、親も男女相半か祖父母まで同行して、皆んなで学ぶというケースが多くなりました。宇宙時代というのか、子供達の宇宙への関心が高まると、親も天文知識をもっていないと、親子の会話が合わないというのでしょうか。2年8年も続けて勉強に来る子供も多く、高校・大学の受験期には姿を消すが、大学に入ってから、また卒業してから訪ねてくれる子供も多い。つい先日やって来た青年は、小・中学生の頃天文教室に通っていたとのこと、大垣に在住で名古屋大学か

ら東京の工業系大学院へ進学するとか、久方振りに故郷に帰って懐かしく思い訪問したとのこと、まだ天文台が潰れてなかったので安心したとの話に呵々大笑でした。天文教室も、始めてからもう11年目となりました。隣の岐阜教育大学生や助手の方々、諸先生方に色々お手伝いを頼んでいます、それぞれに受験勉強や職業をもたれた人ばかりで、基本的な仕事だけをお願いし、掃除や破損器材の修理、庶務、質疑回答、依頼原稿書き等々、台長自らが本職の合間に処理しなければなりません。夜の時間を、これらの仕事や観測に当てていますが、有給の常勤者を置きたい本音を持ちつつ、予算の関係でアルバイトのお世話に頼るのが関の山です。

最近では青少年の非行化問題が云々されがちですが、天文に親しむ青少年は、総じて健全な心身の持主で、ほんとうに良い子供、青年が多い。こうした青少年相互の交流は好ましいが、不特定多数の見学者の中には、マナーに欠ける人もあります。マイカー内のタバコの吸殻を、構内所かまわず捨てて行ったり、ジュースの缶をここに捨てたり、便器の中にガムを捨てたり、便器を汚しっ放しで後始末もしなかったり、こうした躰にも心を配っているのが現実です。これも教育の一環でしょうか。天文学は、学問であると同時に人生の哲学でもあり、生涯の良き伴侶です。天文台が市民天文台として公開され、青少年の育成や生涯教育の一端をも受持つことができるとの信念に燃え、こうした面で配慮するところにも存在価値があります。新学期になると、新しい子供が加わってきます。その中に、躰の悪い子もいますが、日が経つと矯正されていきますから、少しは貢献度があるなあーと自負しています。

最近の傾向としては、地道に研究しよう。たえまなく観測をしよう。…という子供の比率が少ないということは気になります。自然科学のような学問は、早急な成果を期待することは無理で、コツコツと地道に研究を続ける心構えが大切です。いわゆる科学する心を養うことが大切ですが、この点で欠けているようです。こう

した基本的な心構えの育成こそ急務ですが、これは学校教育の大きな課題でもあります。これからの日本には、特にこの問題が注目されるべきでしょう。



当天文台では、さらに、出張講演（講座）、天体運行を理解する精密日時計の普及、観測についての相談、他研究機関との連繋を通じて報道機関や出版への協力、特異天象時の特別観望会、天文学功労者、新天体発見者の表彰等々、多種多様な事業活動・普及活動に努力をしています。10年間を反省してみますと、それなりに大きな効果が認められるものもあれば、反面、あゝもすれば、こうもすればよかったのになあーと反省する点も多々あります。器材や展示品、図書、資料等にも、取替補習を必要とするものが多くなりました。来台者に満足していただくために、色々増設したい点も多々あります。例えば、大型アストロカメラ、光電観測、ソーラプロミネンスの観測装置、ビデオ装置、星座のほんとうの美しさを知るための大口径双眼鏡、視聴覚教育用の諸装置等々、充実したいものばかりです。夢は多く大きくても、維持管理が精一杯で、遅々として実現化できない悲しい現実といえます。

今春には、開台10周年を記念して、4月に京都大学名誉教授の宮本先生を招いて、岐阜市で公開講演会を開催するなど、色々な記念行事を計画しております。次の20周年記念を目指して、着実に一步一步、施設設備・活動内容両面からの充実に努めたいと思っています。皆様方の御支援をお願いいたします。

## 岐阜市立博物館の基本構想について

去る2月6日午後1時30分より、岐阜市中央公民館にて第4回のセミナーが開催されました。社会教育課長 福田 信氏から、岐阜市立博物館建設基本構想案が話題提供されました。市民参加の博物館づくりを目指して、これまでに公民館を中心に、ふるさと学習・市民大学講座・市の文化財めぐり等を開催し、市史 13巻の完結も間近にし、また岐阜日々新聞のキャンペーン I Love GIFU にも呼応し、ふるさとを見直す気運、歴史・文化財への市民の関心の高まりの中で、昭和47年に社会教育委員会から博物館建設の提唱があり、48年3月の議会で議決、49年以降調査・資料収集の予算化がなされた等の経過報告がありました。以下に建設基本構想案を掲載します。

### 仮称岐阜市歴史博物館 建設基本構想案

第1名称 仮称 岐阜市歴史博物館

第2目的 市民が郷土を愛し、郷土の歴史と文化に親しみ、その知識と理解を深める生涯教育の場として活用し、あわせて資料の保存を図り、豊かな市民文化の発展に寄与する。

第3性格

1. 「金華山と長良川流域文化の歴史」を主題とし、岐阜市及びその周辺の政治・経済・社会・文化の各分野にわたる歴史を明らかにする博物館とする。
2. 収集・保管・展示・調査研究並びに教育普及活動の多目的機能を有機的に関連させた博物館とする。
3. 市民の郷土研究・文化活動のための情報センター的な役割をはたす博物館とする。
4. 市民が親しみをもち、同時に学校教育とも深い連携をもった博物館とする。

第4事業

1. 展示

(1)常設展示

ア主題展示 「金華山と長良川流域文化の歴史」を主題としてわかりやすく展示する。

イ鶺鴒展示 鶺鴒を中心とする長良川漁業の展示をする。

(2)企画展示

ア企画展示（特別陳列） 博物館独自のテーマにより博物館資料を中心とした展示をする。

イ特別展示 博物館の主催又は他の機関との協力により特別企画展示をする。

2. 収集

(1)収集の範囲 岐阜市及びその周辺を中心とするが、参考資料は全国的視野にたって収集する。

(2)収集の方法 購入、寄贈、寄託等による。

(3)収集の分野 実物資料を基本とし、考古、歴史、文学、美術工芸、民俗の各分野にわたって収集する。更に重要なものについては複製の作製も行う。

ア考古 出土品及び伝世品等の考古資料を収集する。

イ歴史 歴史上の事象又は人物に関する遺品、古文書等を収集する。

ウ文学 近世、近代の文学作品、その他関係資料を収集する。

エ美術工芸 美術工芸の流れを理解するために必要な資料を収集する。

オ民俗

(イ)鶺鴒関係資料、その他の長良川の漁業資料を収集する。

(ロ)美濃地方固有の民俗資料（傘、提灯等）を重点的に収集し、その他生産、生業、信仰、生活、芸能、娯楽、年中行事等の

資料を、それぞれの体系に基づいて収集する。

### 3. 調査研究

- (1) 岐阜市及びその周辺の歴史と文化の調査研究を行う。
- (2) 博物館資料に関する専門的及び技術的な調査研究を行う。
- (3) 博物館資料の保存及び展示に関する調査研究を行う。

### 4. 教育普及

- (1) 講座、講演会、研究会、学習会等を開催するとともに、友の会等の関連団体の育成を図る。
- (2) 案内書、解説書、目録、図録、年報、研究紀要、調査報告書等を作成し、頒布する。
- (3) 映画会の開催、ビデオ、映画の製作など視聴覚による普及活動に努める。

### 5. 情報提供

地域の歴史的・文化的な情報を集積して、一般の利用に供する。

## 第5 施設

- (1) 建設場所 岐阜市大宮町 岐阜公園内
- (2) 構造 鉄筋コンクリート造地上3階地下1階
- (3) 建築面積 約 1,800  $m^2$
- (4) 延床面積 約 5,000  $m^2$
- (5) 部屋の構成

ア 管理部門 建築延床面積に対して 30%  
館長室、事務室、会議室、休養室、倉庫、便所、階段、ホール、エレベーター、機械室等

イ 展示普及部門 40%  
主題展示室、鞆銅展示室、企画展示室、特別展示室、展示準備室、講堂、講座室、図書資料室、学習室、映像室等

ウ 保管研究部門 30%  
収蔵室、研究室、展示器具室、荷解室、洗浄室、燻蒸室、保存処置室、工作室、視聴覚スタジオ等

以上

この話題提供を受けて、

◎国際観光都市岐阜市の顔として国際性をもたせた格調高い博物館にすること。



◎公立博物館は、建物はできて展示資料・中味がともなわない前例が多い。資料収集には、十分な調査が必要である。思いきった準備調査、資料所在把握、埋もれた文化財の発掘に努めること。

◎主題展示にある「金華山と長良川流域文化の歴史」の地域をどのように範囲づけるのか、文化の中味をどの程度まで、信長にまつわる南蛮文化の扱いをどうするのかなど、今後の具体的な展示構想の検討を深めること。

◎文学における俳諧、美濃地方固有の民俗資料における美濃紙、ウチワ、あるいは美濃じまの扱い等、資料収集においても、岐阜市及びその周辺をどのようにとらえるのか、またその分野をどうするのか

◎50に近い各地域の公民館の諸活動等、他の社会教育機関と重複する面をどうしていくか、その中で博物館ならではの特色をどう具体化していくか。等々の今後の課題が活発に話し合われた。

現在岐阜市は、市民センターの改築、鉄道高架など大型プロジェクトがスタートするところであり、博物館づくりに関する国の補助も1~2億円しか期待できず、昭和60年度の開館を目指しているが、財政的には厳しい条件下にあるようです。それでも、すでに学芸員を5名確保し、資料購入費も年々計上され着実に歩み出しています。より多くの声を結集し、県都岐阜市ならではの個性あふれる他に例をみない地方博物館づくりに、期待するとともに最大限の声援を送りたいものです。

(文責 編集部)

## ≡ 県内 ニュース ≡

### 歯の博物館 着工

県歯科医師会では、老朽化した県歯科医師会館の移転新築に伴い、全国的にも珍しい「歯の博物館」併設計画を進めてきたが、去る1月17日岐阜市加納城南通1の建設現場で起工式が行なわれた。県口腔保健衛生センター（4階建）の二階に、歯の病気から歴史、治療技術、予防など人間と歯のかかわり合いを、広く県民に理解してもらう展示室で、学校の保健体育学習の場としても開放され、57年春オープンの予定です。

### みつばちの家 岐阜市畜産センターに

県下の養蜂業者の願いが実り、岐阜市樺洞市畜産センター、乗馬施設の隣に「みつばちの家」が実現する。建物自体を巨大な巣に似せたユニークな六角形を基本としたデザインで、鉄骨づくりの二階建、一階は展示室、二階が研修室である。展示内容は、みつ源植物の種類、ミツバチの生態、養蜂の歴史等で、実際にミツバチを飛ばすコーナーも設けられる。いわばミツバチ百科の館で、科学教育の学習の場となる願いがこめられ、入場も無料の予定。3月オープンを目指して目下建築中である。

### 県美術館 待望の起工式

ルノアールの「泉」をはじめ、郷土が生んだ三大巨匠川合玉堂、前田青邨、熊谷守一の作品群などの収集で注目されている岐阜県美術館は、来秋の開館を目指して、去る2月12日、岐阜市宇佐四の一の建設現場で起工式が行なわれた。敷地面積約31,600㎡、本体は地上2階一部塔屋、地下。延べ面積7,160㎡、本体工事費約28億円。◎県民に親しまれくつろぎのある美術館、◎県民にゆかりのある作品を収集展示する美術館、◎県民に美術についての国際的視

野を広げる美術館、◎21世紀の県民の創造感覚に影響を与える美術館、◎美術活動を推進するセンターとしての美術館—をめざして、大いなる期待に包まれて着工しました。昭和57年6月に建物完成、11月開館が予定されている。

## 原稿募集

新収蔵資料の紹介、目玉展示資料の解説、催物案内、発行図書を紹介、あるいは博物館人として思うこと、博物館界に望む声、研究レポート、その他何でも自由に寄稿下さい。〆切日は特に設けていません。年4回発行の季刊誌です。横の結びつきを深め、未発達な博物館界の理論・実践の交流の場として、会員の皆様の多大な声の結集を望んでいます。原稿は、事務局まで随時送付下さい。

### 編集後記

◎過日岐阜天文台を訪れ、久しぶりに正村先生にお会いしました。観測に余念がなくほんの立話に終わりましたが、いつも変わらぬ若々しい万年青年との感を一層強めました。知的活動に全力投球をされ、何かを追い求め続けられる姿にはつい頭が下がりますが、これこそ若さを保つ秘訣だと教えられました。正村台長には、10年を振り返って教育活動の実践を書いていただきました。こうした地道な博物館活動が、資金難の民間の手で行なわれていることに、もっともっと敬意をはらう必要があります。

◎県美術館の建築も軌道にのり、岐阜市歴史博物館づくりも始動しています。本県の公的博物館もどんどん整備され、博物館の時代いよいよ到来を思わせます。あらためて博物館の何たるか？を問い直し、建物でなく機関として、ヒトとものとの有機的に結合した活動体としての望ましい姿を、追い続ける必要さを感じています。(S.O)